

1. 薬物乱用・薬物依存・薬物中毒の違いを理解する

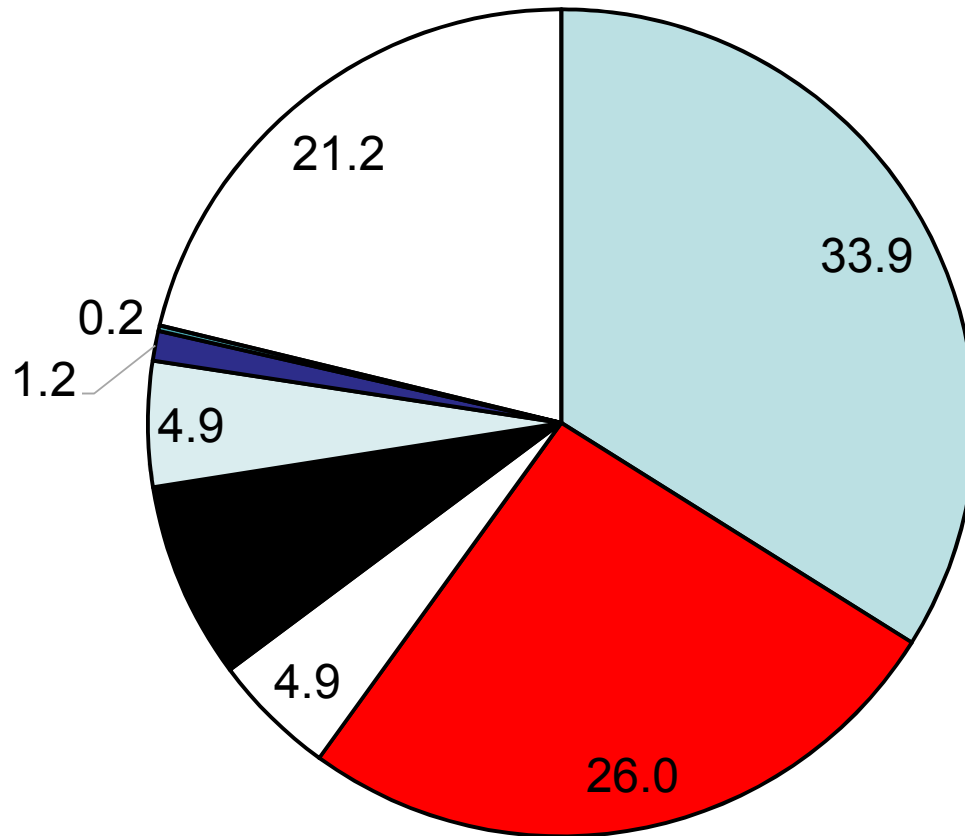
2. 薬物乱用・依存者への対応の現状と今後の対応

治療施設の実情

(平成21年6月30日現在)

- 入院患者総数： 310,738 人
統合失調症圏 59.1%, 器質性精神障害 20.7%
- 精神作用物質による患者： 14,611 人 4.7%
- 「アルコール」患者： 13,266 人 4.3%
- 「覚せい剤」患者： 671 人 0.2%
- 「その他」患者： 674 人 0.2%
- 精神科病院数： 1,636 施設
このうちの4施設(全精神科病院の0.2%)で
- 精神作用物質関連患者： 469人 (全体の 3.2%)
- 「覚せい剤」患者： 83人 (全体の12.4%)
- 「その他の薬物」患者： 21人 (全体の 3.1%)
- 「覚せい剤」+「その他の薬物」： 104人 (全体の 7.7%)

入所受刑者 罪名別割合(%) 2012年 24,780人



窃盗

詐欺

麻薬取締法

覚せい剤取締法

傷害

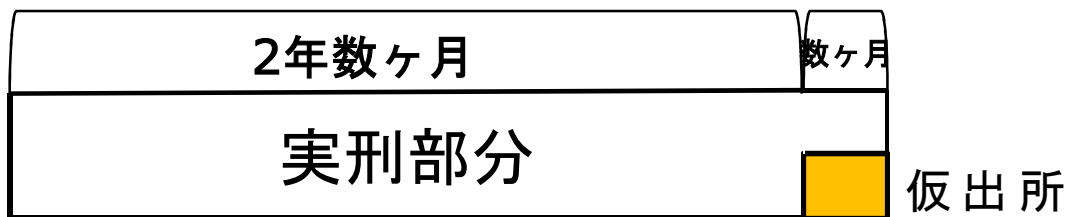
その他

道路交通法

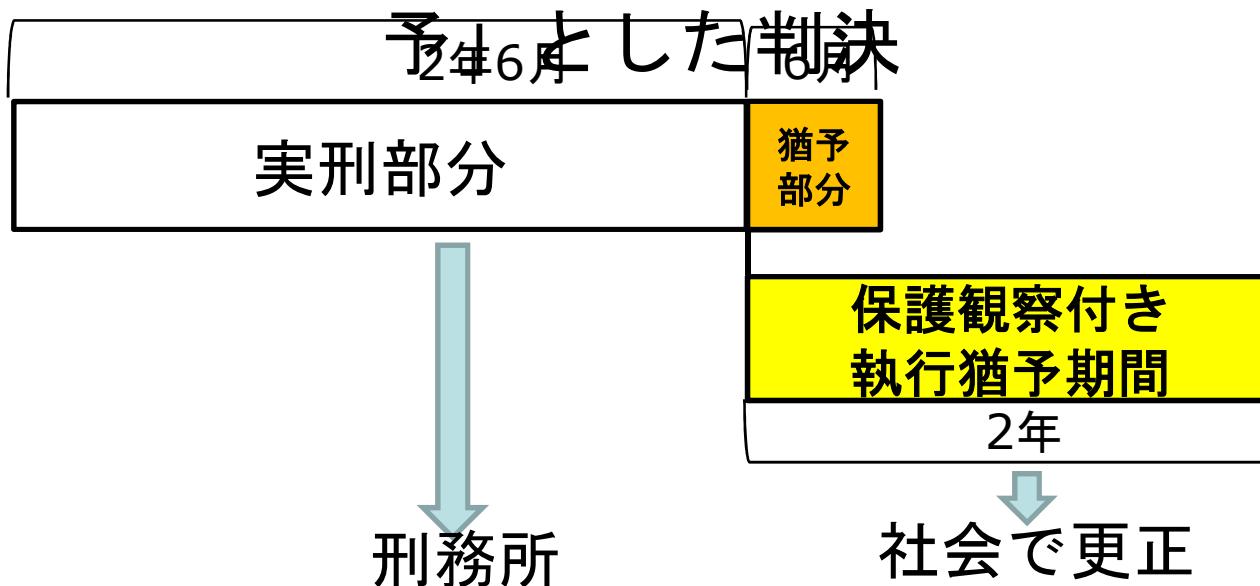
殺人

刑の一部執行猶予のイメージ

(従来の制度) 「懲役3年」の判決



(新たな制度) 「懲役3年，うち6月を2年間の
保護 観察付き執行猶



我が国に必要な体制

- 医療領域での「**薬物依存**」に**的を絞った治療システム**（社会資源）を準備する必要がある。

1. 正しい知識の普及

- 「家族読本」
- 「相談員マニュアル」

2. 地域での「回復」に向けた体制の強化

- 認知行動療法を取り入れた包括的外来治療システム
- 精神保健福祉センター、医療施設、保護観察所、ダルク等民間「回復」支援施設、NA等自助グループの連携
- 薬物依存症者の家族支援

3. Habilitation的入寮施設の建設（回復者の活用）： 割愛

●ご家族の薬物問題でお困りの方へ●



厚生労働省

目次

第1章 薬物依存症を理解しましょう

- 1 薬物乱用・薬物依存・薬物中毒 P. 2
- 2 薬物依存症が生み出す様々な問題 P. 5
- 3 薬物依存症の進行と回復の過程 P. 7

第2章 回復のために家族は何をしたらよいのでしょうか

- 1 薬物依存症が家族にもたらす影響 P. 13
- 2 薬物依存症と家族の悪循環 P. 15
- 3 大切な人のために家族ができること P. 16

第3章 まずは家族が元気をとりもどしましょう

- 1 家族の自助活動 P. 20
- 2 自助活動の効果 P. 23

第4章 家族の相談が回復のチャンスを作ります

- 家族の相談が回復のチャンスを作ります P. 24

第5章 Q & A

- Q & A P. 29

- 付録：連絡先一覧 P. 39

我が国に必要な体制

- 医療領域での「薬物依存」に的を絞った治療システム(社会資源)を準備する必要がある。

1. 正しい知識の普及

- ・「家族読本」
- ・「相談員マニュアル」

2. 地域での「回復」に向けた体制の強化

- ・認知行動療法を取り入れた包括的外来治療システム
- ・精神保健福祉センター、医療施設、保護観察所、ダルク等民間「回復」支援施設、NA等自助グループの連携
- ・薬物依存症者の家族支援

3. Habilitation的入寮施設の建設(回復者の活用): 割愛

地域での「回復」に向けた体制の強化

保護観察所

- ・ 認知行動療法の実施
- ・ 民間リハビリ施設、自助グループとの橋渡し・連携の強化
- ・ 精神保健福祉センター、病院との連携の強化

精神保健福祉センター

- ・ 相談業務の強化
- ・ 民間リハビリ施設、自助グループとの橋渡し・連携の強化
- ・ 家族教室の見直しと強化
- ・ 認知行動療法の実施

病院

- ・ 認知行動療法の実施

民間リハビリテーション施設(ダルク等)

ナルコティックス・アノニマス(NA)

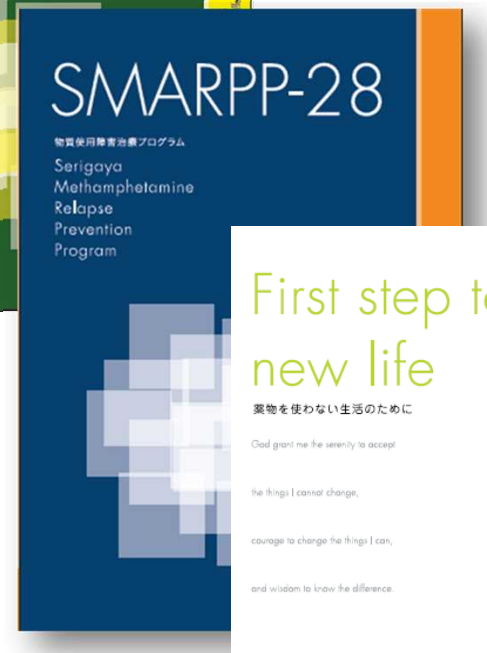
【認知行動療法の登場】

- 記憶は消すことができないが、考え方と行動様式はコントロールできる（変えることができる）。



- **継続参加を最重要視**
参加している間は断薬を！
これが、その後の断薬継続につながる！

- 第1回 なぜアルコールや薬物をやめなきゃいけないの
- 第2回 引き金と欲求
- 第3回 精神障害とアルコール・薬物乱用
- 第4回 アルコール・薬物のある生活からの回復段階
- 第5回 あなたのまわりにある引き金について
- 第6回 あなたのなかにある引き金について
- 第7回 生活のスケジュールを立ててみよう
- 第8回 合法ドラッグとしてのアルコール
- 第9回 マリファナはタバコより安全？
- 第10回 回復のために一信頼、正直さ、仲間
- 第11回 アルコールを止めるための三本柱
- 第12回 再発を防ぐには
- 第13回 再発の正当化
- 第14回 性の問題と休日の過ごし方
- 第15回 「強くなるより賢くなれ」
- 第16回 あなたの再発・再使用のサイクルは？



SMARPP-16、SMARPP-28、自習ワークブック「SMARPP-Jr.」

HALT : 薬物を使いがちな状況

HUNGRY — 空腹 —

ANGRY — 怒り —

LONELY — 孤独 —

TIRED — 疲労 —

【ねらい】

- ・記憶は消せないが、考え方と行動様式はコントロールできる。
- ・継続参加を最重要視 参加している間は断薬を！
これが、その後の断薬継続につながる！

【課題】

- ・参加への導入がなかなか難しい。

【効果】

- ・参加さえすれば、治療施設での**治療継続率が上がる**。
認知行動療法
導入前： 3ヶ月後には**60%～70%が脱落**
導入後： 4ヶ月後でも**60%～80%が継続**

2. 家族への対応について

■ 家族支援の重要性

- ・薬物依存症本人の回復に対して、家族が及ぼす影響が少なくない。
- ・家族は疲弊困憊しており、家族自身の精神的・身体的健康を回復させる必要がある。

めざすもの:

本人も家族も

回復支援グループに繋がることを目指す。



薬物依存症をもつ家族を
対象とした心理教育プログラム

薬物依存症

薬物依存症と④



薬物依存症をもつ家族を
対象とした心理教育プログラム

上手なコミュニケーション で本人を治療に

家族の本人に対する関



薬物依存症をもつ家族を
対象とした心理教育プログラム

長期的な回復を 再発・再使用に

家族の本人に対する関



薬物依存症をもつ家族を
対象とした心理教育プログラム

家族のセルフケア

家族のセルフケア Vol.1

薬物依存症

依存性薬物使用の最大の怖さは、依存形成にある。

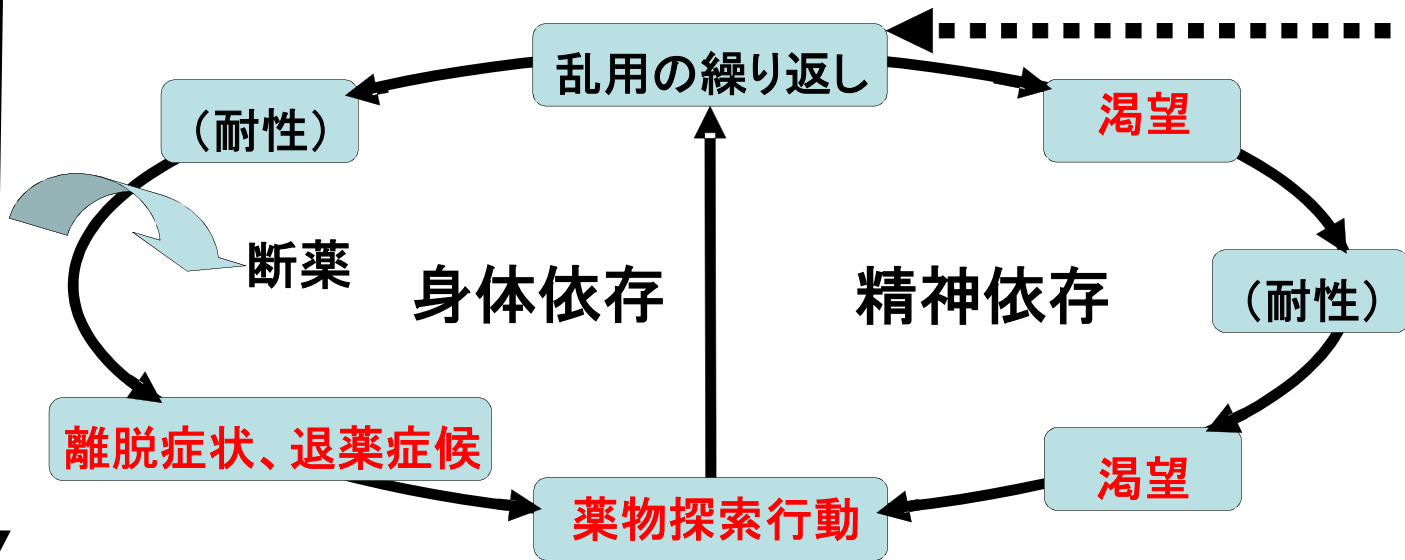
乱用 (Abuse) : 薬物を社会的許容から逸脱した目的や方法で自己使用すること

急性中毒 (Acute Intoxication) : 乱用の結果。
急性アルコール中毒・有機溶剤急性中毒・覚せい剤急性中毒・身体症状

依存 (Dependence) : 自己コントロールできずに、やめられない状態

乱用の繰り返しの結果

地域での「回復」支援体制



慢性中毒 (Chronic Intoxication) : 依存にもとづく乱用の繰り返しの結果
覚せい剤精神病・有機溶剤精神病・身体症状

1. 薬物乱用の持つ多面性 2. 乱用者には3種類ある

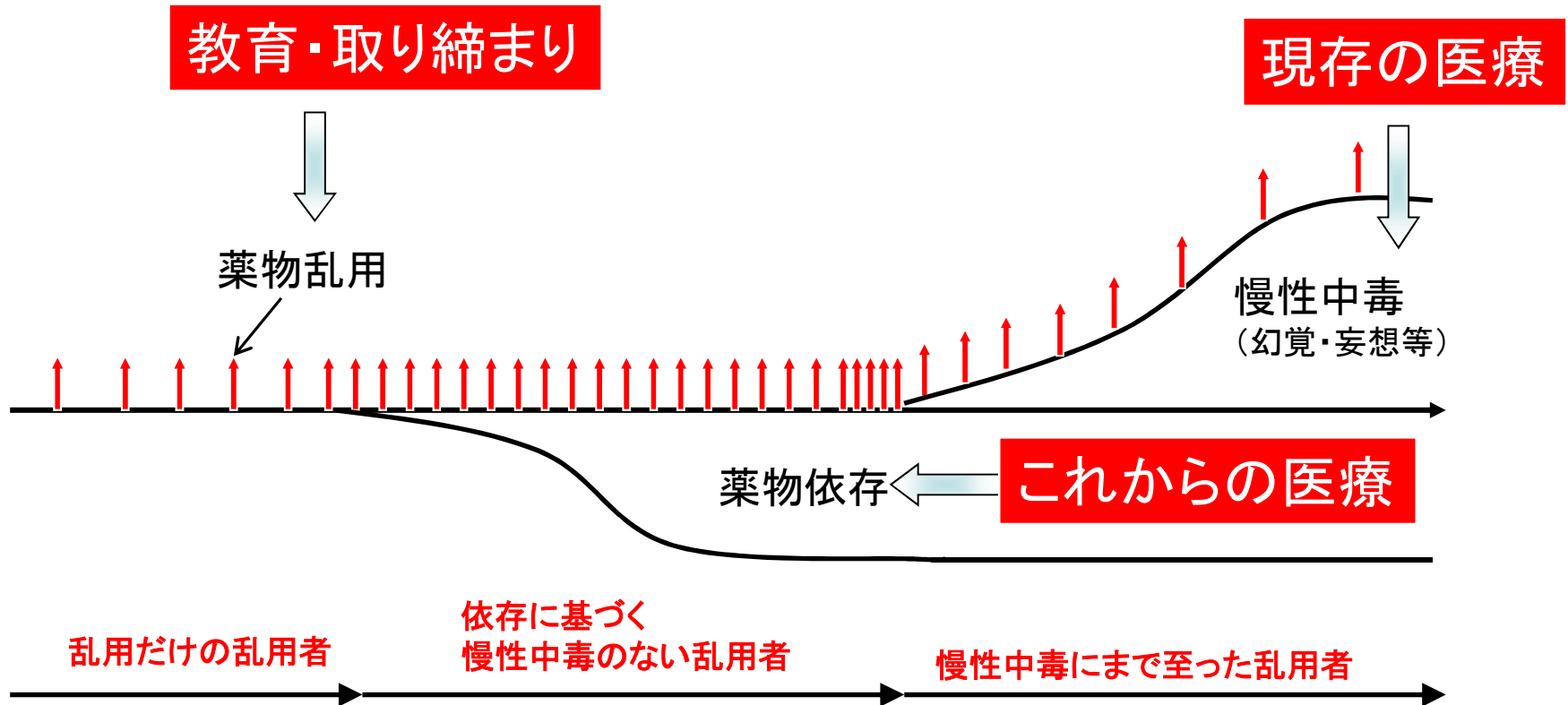


図3 薬物乱用・薬物依存・薬物中毒の時間的關係

各国の違法薬物の生涯経験率(%)

	対象年齢	何らかの違法薬物	大麻	アンフェタミン類	コカイン	MDMA	ヘロイン	調査年	出典
英国 (England+Wales)	16-59	34.7	29.2	10.3	9.8	9.2		2014	EMCDDA
オランダ	15-64		24.1	4.4	5.1	7.4		2014	EMCDDA
ドイツ	18-64	23.9	23.1	3.1	3.4	2.7		2012	EMCDDA
フランス	15-64	41.1	40.9	2.2	5.4	4.2		2014	EMCDDA
デンマーク	16-64	36.0	35.6	6.6	5.2	2.3		2013	EMCDDA
イタリア	15-64	32.7	31.9	2.8	7.6	3.1		2014	EMCDDA
スペイン	15-64	31.3	30.4	3.8	10.3	4.3		2013	EMCDDA
米国	12歳以上	49.2	44.2	4.9	14.8	6.6	1.8	2014	NSDUH
カナダ	15歳以上	43.2	41.5	4.8	7.3	4.4	0.5	2012	CADMUS
オーストラリア	14歳以上	41.8	34.8	7.0	8.1	10.9	1.2	2013	1)
タイ	12-65	16.4	12.1	7.8	0.1	0.8	2.1	2001	2)
日本	15-64	2.4	1.0	0.5	*	0.1	*	2015	3)

EMCDDA: European Monitoring Center for Drug and Drug Addiction
 NSDMUS: National Survey on Drug Use and Health
 CADUMS: Canadian Alcohol and Drug Use Monitoring Survey

1) 2013 National Drug Strategy Household Survey
 2) 2001 National Household Survey
 3) 薬物使用に関する全国住民調査(2015年)